

研究紹介 Rhif 2 Jane Gifford (1994) *The Celtic Wisdom of*

Trees, Mysteries, Magic, and Medicine, London: Godsfield Press.

黒田 滋

表題にある通り、本書は、ヨーロッパの祖先ケルトの智慧として、その神秘・魔法・癒しについて紹介し、個々の樹木の持つ文化的・医学的価値について論じている。そして、紀元前後のブリテン島に侵入したローマ人たちの驚きについて、“そこに住むケルト人には政治的中心もなく、支配者も存在していなかった事”や、“ケルト人は「祖先崇拜」と「死後の世の存在」という精神生活の基盤を持っている事”など、ローマ人にとっても信仰生活には共通性を感じたと記述もしている。また、ケルトの自然と調和した生活や、自然界の創造物の背後に存在する霊についても言及している。当時英国には鬱蒼とした森が広がっていて、避難場所、エネルギー、食べ物、さらには薬の元になったものの恵みなど大切な存在であった。そうしたケルト的な知識を詩の形で表現した伝承や、アイルランドのオラーヴ、ウェールズのドルイド等に、象徴と連想に謎を解き明かす鍵を求め、オガム文字についても、樹木や草木の名称との関連を指摘している。

「ケルトの木のアルファベット」と呼ばれる最古のオガム文字は、すべての文字が木の名前と結び付けられ、最初の文字 B は、Beth としてシラカバの木に由来するという様に綴られている。アルファベットは 20 の文字 (5 つの母音と 15 の子音) から成り立ち、20 の文字には其々に象徴的な智慧が隠されている (本会の機関誌「日本カムライグ研究」*Bwletin* 第 3 巻第 1 号—2007 年 5 月発行に記載予定の別稿「Wales の森林再生に向けて」を参照)。また、ケルトの木は 13 ヶ月で成り立っていて、特定の木との関連を示すが、詩人ドルイドになるための 12 年の修行、「色のオガム」や「島のオガム」など、150 にもなるのアルファベットについても述べている。「オガム」という名称は、「雄弁を司る神、太陽の顔を持つオグマ」に由来すると言われているが、古代ケルト人が木に与えた意味と活用法や、木々が人類や生態系に対して持っている貢献について指摘している。カムリの国の自然保護について考える場合、極めて示唆に富む情報を提供してくれる研究である。

我々人類は古代から豊かな自然の恵みを多く授かってきた。ケルト祖先の知恵には今なお学ぶ所が多くある。私たちはこの神秘に溢れた祖先の知恵を、彼等が育みそだてた環境と共に後世に残していくことが大切であると思う。